

序章 研究課題と方法 .....	1
第1節 課題の設定	1
第2節 韓国における「近代化」の意味	
— 「植民地的近代」研究に関する考察を中心に—	5
第3節 先行研究の検討	10
(1) 植民地期の朝鮮教育に関する新たな研究動向	10
(2) 韓国の社会教育に関する先行研究の検討	14
第4節 本研究の課題および方法	19
(1) 社会教育概念と時期の限定	19
(2) 本研究の課題及び方法	24
第1章 大韓帝国末期（1906～1910）の社会教育の導入 .....	36
第1節 学部における通俗教育の導入とその実態	36
(1) 統監政治の始まりと大韓帝国末期の教育現実	36
(2) 通俗教育の導入とその実態	42
第2節 韓国開化派知識人による社会教育概念の導入とその実践	
— 各種「学会」の機関誌に関する検討を中心に—	51
(1) 愛国啓蒙運動と社会教育概念の導入	51
(2) 社会教育的実践としての夜学活動	63
第2章 植民地朝鮮における社会教育施策の展開過程 .....	82
第1節 植民地初期（1910～1919）における社会教育施策	82
(1) 「日韓併合」と植民地朝鮮教育の方針	82
(2) 「学校を中心とする社会教育」施策とその実態	84
第2節 植民地中期（1919～1932）における社会教育施策	89
(1) 三・一運動の勃発と文化政治への転換	89
(2) 「学校を中心とする社会教育」施策の強化	92
(3) 社会教育の行政的制度化のための動き	102

第3節	植民地後期（1932～1945）における社会教育施策	106
	（1）戦時体制準備と皇国臣民化のための教育政策	106
	（2）社会教育行政機構の整備および主要な社会教育政策	108
第3章	実業教育関連の社会教育施策の展開およびその目的	127
第1節	実業補習学校の設置・運営およびその変容	127
第2節	「卒業生指導」施策の実施とその意図	135
第3節	農民訓練所の設置と中堅人物の養成	145
第4章	朝鮮民衆による社会教育実践—夜学を中心に—	162
第1節	三・一運動後における夜学急増の背景	163
第2節	夜学の設立および運営の実態	173
	（1）夜学の設立状況	173
	（2）夜学の設立・経営主体と朝鮮総督府の統制政策	175
	（3）教師および学生と夜学の類型	181
	（4）教科目および教材	183
第3節	朝鮮民衆による夜学活動の特質	184
終章	韓国における社会教育の歴史的 성격と今後の課題	205
第1節	結論：韓国における社会教育の歴史的 성격	205
第2節	本研究における成果と残された課題	209
第3節	韓国における社会教育の現状と今後の課題	211
補論	近代国民国家の形成と社会教育の展開	215
	はじめに	215
第1節	「国民（民族）」概念の形成と社会教育	216
	（1）「国民」および「民族」概念の形成	216
	（2）「国民（民族）」の形成のための社会教育	222

第2節	社会教育における「社会」・「地方」概念の意味	227
	(1) 「社会」概念とその内在的意味	227
	(2) 統制対象としての「地方」概念の成立	232
	(3) 社会教育における「社会」および「地方」概念の意味	235
	まとめ	237
あとがき	.....	244
参考文献	.....	246
資料	.....	255

## 図表目次

## 【図】

図 1-1	1895～1905年の学校制度	37
図 1-2	1906～1911年の学校制度	38
図 1-3	1895～1907年の学部組織	43
図 1-4	1907～1908年の学部組織	44
図 1-5	1909～1910年の学部組織	44
図 2-1	第2次朝鮮教育令公布(1922.2)以前の学校制度	91
図 2-2	第2次朝鮮教育令による学校制度	91
図 2-3	社会教育教化事業の担当部署一覧	113
図 3-1	卒業生指導施設数と実業補習学校数の増減推移	140
図 3-2	卒業生指導施設と実業補習学校の生徒数の増減推移	140
図 4-1	李敦化による「朝鮮新文化建設のための図案」	187

## 【表】

表 1-1	1906年以来5年間官公立および補助指定普通学校状況表	40
表 1-2	1910年現在高等程度官公立諸学校一覧表	40
表 1-3	学部認可済私立学校数(1910年5月現在)	42
表 1-4	大韓帝国末期の学会(1909年)	54
表 1-5	1905～1910年の夜学設立状況	64
表 1-6	夜学の教科目(1905年～1910年)	68
表 2-1	植民地時代初期の初等教育機関への就学状況	83
表 2-2	公立普通学校入学状況	95
表 2-3	学校を中心とする社会教育状況	100
表 2-4	歴代の朝鮮総督府学務局長・課長の経歴	116
表 2-5	公立普通学校授業料(1915年2月8日現在)	122
表 3-1	大韓帝国末期の実業教育施設の状況	128
表 3-2	実業補習学校の学校数・学級数・職員数・生徒数	131
表 3-3	公立実業補習学校の分布状況	134
表 3-4	卒業生指導施設数および指導生・指導教師数	136
表 3-5	卒業生指導施設の指導期間	137
表 3-6	卒業生指導施設における指導科目	137
表 3-7	労働争議・小作争議の趨勢	138
表 3-8	1920年代における学生同盟休校の状況	139
表 3-9	中等学校の入学競争	141

表 3-10	実業補習学校卒業者の進路（1933 年度）	142
表 3-11	実業補習学校の入学競争率（1934 年度）	142
表 3-12	農民訓練生の階層構成（1936 年 11 月現在）	148
表 3-13	朝鮮農家の階層構成比	149
表 3-14	驪州郡農道講習所の学科目及び学科課程、教授時数	150
表 3-15	各道の農村振興予算における農民訓練所の予算（1936 年度）	150
表 3-16	儒城農村青年訓練所の日課表	152
表 3-17	日本における国公立別実業補習学校の推移	154
表 4-1	各級学校別学校数・生徒数の推移（1911～1936）	166
表 4-2	在日朝鮮留学生の国費および私費別累年人員表	167
表 4-3	京城府の入学競争率および入学率	168
表 4-4	私立学校の状況	169
表 4-5	『東亞日報』にみられる夜学設立の分布	174
表 4-6	夜学設立主体の年別分類	176
表 4-7	咸鏡南道高原郡の夜学経費負担別夜学数	178
表 4-8	書堂累年統計表	178
表 4-9	夜学の学生数と教師数	183
表 4-10	夜学の教科目	184
表 4-11	普通学校および書堂における男女学生数の比較表	186
表 4-12	夜学における朝鮮語教育の状況	196